



**Joint
Graduate
School of
Mathematics for
Innovation**

マス・フォア・イノベーション関係学府



数学モデリングで 共創・創発する プロフェSSIONナルの育成

数学共創 創発

データサイエンスやAIの需要が急上昇している世界で必要とされるのは、様々な諸科学分野や実社会に潜む課題の発見・解決において、数学を学術基盤としつつも、学問の境界領域を超えて共創し、自由な発想と理解力でイノベーションを創発できるプロフェSSIONナル人材です。

本連係学府は、連係協力学府である数理学府、システム情報科学府、経済学府が連携・協力し、さらに多様な専門領域の教員が参画することにより、異分野と共創しながら教育・研究を実施する新しい形の学府であり、数学力・統計力を基盤として構築した数学モデリングをもとに幅広い分野で花開く卓越した数学博士人材を育成します。

本学府は、九州大学が独自に構築した5年一貫の文理横断型プログラムである「ダ・ヴィンチプログラム」の枠組みのもと、研究科等連係課程実施基本組織として設置した初めての学府であり、本学の最重要大学院プログラムに位置付けられています。

ISEE

Mathematics

Economics



マス・フォア・イノベーション
連係学府

Joint Graduate School of Mathematics for Innovation

学府長からのメッセージ

マス・フォア・イノベーション連係学府は2022年春に数理学府、システム情報科学府、経済学府の連係の下で九州大学に開設されました。本連係学府では「数学モデル」をキーワードとして、数学と様々な分野を結びつける教育と研究を行います。

一般に博士課程において、学生はそれぞれの学問分野について深い知識を学び、専門的な研究を行い、結果を論文や口頭発表で発信する経験を積むことで、自立した研究者としての基盤を身につけます。これは研究者として「強さ」を身につけることと言えます。

本連係学府ではそれに加えて、学問領域を超えた様々な分野において「共創」する力を身につけることを目指します。これは研究者として他者に敬意を払うことや他者と協力して問題を解決するといった、「社会性」や「柔軟性」にあたるものです。

「強さ」と「柔軟さ」は私たちの人生のあらゆる場面で必要となり、バランスどこで取るかはその人や組織の在り方に関わる重要な問題です。ここに集う学生諸君がそれぞれの強固な学問的基盤のもとで、本連係学府で「共創する力」を身につけて社会の様々な分野で活躍することを心より願います。



学府長

辻井 正人

TSUJII Masato

学位：博士（理学）

専門分野：力学系理論、エルゴード理論



マス・フォア・イノベーション
卓越大学院

Graduate Program of Mathematics for Innovation

マス・フォア・イノベーション連係学府は、
文部科学省「卓越大学院プログラム」(令和2(2020)年度採択)
「マス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラム」を実施しています。

マス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラム

本連係学府が実施する「マス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラム」は、文部科学省「卓越大学院プログラム」事業に令和2年度に採択されたプログラムです。本プログラムは、国際的に優れた数学力及び統計力を基盤として、組織や分野の垣根を越え、数学モデリング力を活かして各分野で共創し、イノベーションを創発する卓越した数学博士人材を育成することを目的としています。

本プログラムの目的

本プログラムが掲げる最も大きな目的は以下の2つです。

- 1) 世界に誇れる修士・博士一貫の文理横断型学位プログラムとして構築・発展させることで、本学のみならず我が国の大学院改革を推進・先導します。
- 2) 我が国における産業数学の潜在力を引き出すとともに、他分野と共創できる数学博士人材の質・量の充実に資するプログラムとすることで、世界の社会や産業の発展・牽引に貢献します。

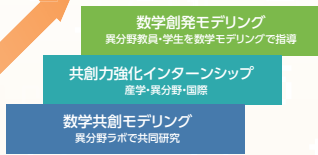
What the Joint Graduate School Aims for 連 係 学 府 が 目 指 す も の

本連係学府では、主として数学学、システム情報科学、経済学を学ぶ学生の中から優れた数学的資質と他分野との共創に意欲を持つ学生を選抜し、基盤となる学問分野の学びを発展させながら、次の5つの力「マス・ファイブ・フォース(MFF)」を備えた数学モデリング人材「マス・フォア・イノベーション プロフェッショナル」を育成します。



マス・フォア・イノベーション プロフェッショナル

国際的に優れた数学力・統計力を知識基盤に、数学モデリングを構築し組織や分野の垣根を越えて各分野で共創して大学でも企業でもイノベーションを創発する **卓越した数学モデリング人材**



新しい分野横断型教育
大学院改革へ波及

Characteristic Activities 特 徴 有 る 活 動

マス・フォア・イノベーションカフェ

講演・ポスター発表・交流会を参加者全員の顔が見える規模で定期的に行います。数学科学部生に加え、共創メンターとヤングメンターの協力のもと、他分野の学部生等の参画を得て、数学力や共創力向上の機会とします。

スタディグループ

社会や産業におけるさまざまな現実的問題に対して、数学研究者が協働で取り組む産学連携シーズ発掘に極めて有効な短期集中の問題解決型研究会です。プログラム担当者や全学年の学生に加え、企業や異分野の研究者、および学部生や他大学からの参加も得て年に1回程度実施しています。



マス・フォア・イノベーションカフェの様子



スタディグループの様子

Curriculum and Distinctive Subjects カ リ キ ュ ラ ム と 特 色 有 る 科 目

マルチメンター制による研究指導					
	M1	M2	D1	D2	D3
	学位審査・修士号取得 博士前期課程修了要件30単位以上		学位審査・博士号取得 博士後期課程修了要件16単位以上		
⑤ 創発力	●卓越基礎講義 (修士論文指導) [10単位]		●卓越講義 (博士論文指導) [8単位] ●数学創発モデリング [2単位] ▶ 他分野の研究室で共同研究 ▶ リバースメンター ●卓越論報 [2単位]		
④ 共創力 ④ モデリング力(実践)	●数学共創モデリング [4単位] ▶ 他分野の研究室で学ぶ ▶ 共同研究等		●共創力強化インターンシップ [4単位:1科目選択] 国際/異分野/産学		
③ モデリング力(基礎) ② 統計力 ① 数学力	●基礎科目 [4単位] ●トランジション科目* *システム情報科学、経済学を学ぶ学生が選択可能 ●専攻教育科目 ●指導教員が必要と判断する他学府の授業科目				

※カッコ内は必修単位数

数学共創モデリング

学生それぞれの希望した異分野の研究室等で、学生や若手教員らと協働しつつ、その分野の基礎的事項を学びます。数学モデリングの側面から当該分野に貢献しつつ、共同研究・共著論文・学会発表等に取り組むことで、新たな価値を創造できる「共創力」を備えた人材の育成を目指します。



共創力強化インターンシップ (国際/異分野/産学)

これらのインターンシップは、博士後期課程における選択必修とし、共創力強化を図ります。
国際: 海外の大学・研究機関等において研究と研究開発(業務)の実習を実施します。
異分野: 異分野の研究拠点等に長期滞在し、数学モデリングの観点から貢献して共同研究を行います。
産学: 産業界の協力の下、企業での研究に参加し、研究開発(業務)の実習を実施します。

数学創発モデリング

学生を異分野の学内教員のもとに派遣し、当該学生がリバースメンターとなり、数学モデリングの観点から教員や他の学生をリードします。学生に数学モデリングで他分野の研究に貢献する経験をさせ、学生本人のスキル向上と異分野への革新的な数学モデリングと解析手法をもたらすことを目標とします。



Full Support System 充実したサポート体制

経済的支援

博士前期課程の学生

- 卓越奨励金 ▶ 年間54万円程度支給

博士後期課程の学生

学振DC、次世代研究者挑戦的研究プログラムと同等額を支給

- 卓越奨励金 ▶ 年間186万円程度支給
- 授業料支援金 ▶ 年間54万円程度支給

研究支援

- 旅費支援 ▶ 共創力強化インターンシップ、学会発表、調査研究、留学（短期プログラム）に伴う旅費を支援。
- 国際的支援 ▶ 無料で参加できる独自の英会話学習サポートや、海外留学支援制度など、国際的人材を育成するための充実した支援。
- その他 ▶ 研究に必要な機器等の貸与（高性能PC、タブレット、書籍、その他）

卓越社会人博士課程制度 日本初!

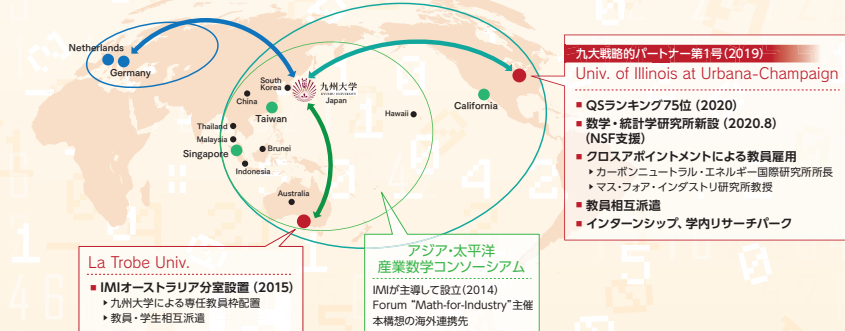
博士前期課程修了後、企業が採用、同時に社会人として博士後期課程に進学

- 経済的支援、キャリア構築、産学連携強化、大学・企業間人材往還促進等、複数の課題が一挙に解決
- 富士通株式会社富士通研究所を中心に連携実績のある他企業とも協力、本連係学府で日本初の制度化
- 毎年1〜2名に制度適用を目指す



International Cooperation 国際連携

本学の戦略的パートナーであるイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 (UIUC、米国) やマス・フォア・インダストリ研究所 (IMI) が分室を置くラ・トロープ大学 (オーストラリア) と連携し、教育の質保証と教員・学生交流を深化します。さらに、国際的産業数学研究ネットワークであるアジア・太平洋産業数学コンソーシアム (APCMfi) のようなリソースも活用して学生を海外へ派遣し、言語や文化の異なる国際的環境下で創造力を養成します。



English Training 独自の英会話学習サポート

本連係学府では、国際的支援の一環として、対面レッスンを基本とし（新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンラインレッスンへ変更の可能性あり）、英語4技能をバランスよく醸成することを目的とした無料で参加できる英語研修を行っています。

研修内容

対面レッスン

- 1年間を通して、アカデミックな分野で必要とされるインプット/アウトプットをバランスよくトレーニングし、グローバルに活躍できる人材育成を目指した目的別レッスン。
- ・英語力養成レッスン: 英語コミュニケーション基礎力を養成する
 - ・スピーキング実践レッスン: 英語運用能力を高め、スピーキングによる伝達能力を高める
 - ・プレゼンテーションレッスン: 英語によるプレゼンテーションの構成、語彙・表現、効果的なスライドの作成方法、ボディランゲージ・声のトーン等のスキルを習得する

令和4年度 研修内容	■ 期間	2022年5月～2023年2月(予定)	■ 開講日時	週2回	■ 費用	無料(教材費込み)
	■ 研修回数	全42回	■ 開講スタイル	6～7人の少人数制		

E-learningシステム

- PC、スマートフォン、タブレット端末を利用して、隙間時間に英語の勉強ができるシステム。
- ・生命科学、工学、情報科学、地球とエネルギーの4つの分野の専門用語を学習可能
 - ・2000語以上の理工分野の語彙を収録(音声収録)
 - ・200以上の学会発表等で役立つフレーズを収録
 - ・確認テストによる効率的な学習が可能

口頭運用能力測定テスト (TSST)

TSSTとは、ペーパーテストでは測定できない、英語スピーキング能力を把握するためのテスト。TSSTを通して、自分の考えを「その時」「その場で」瞬時に話し伝える能力を判定でき、1年間の研修期間の始めと終わりに実施することで、成長を確認することができる。



Multi Mentor System マルチメンター制度

各メンターからなるマルチメンター制により複数教員等で学生の研究指導体制を構築します。入口から出口まで手厚く学生をサポートする仕組みを通し、主に学生の創発力を養成します。

研究メンター(指導教員)

講究科目を通して数学系分野で学生を中心に指導し、他のメンターを総括します。

共創メンター

学生の数学系の主要研究分野とは異なる分野のプログラム担当者である教員。数学共創モデリング・数学創発モデリングを中心に教育研究活動を指導します。

グローバルメンター

海外研究機関の著名研究者。数学系分野もしくは他分野の学術的指導に加え、国際共創力強化インターンシップ、英語による教育研究・コミュニケーション指導等を担当します。

■ 海外の連携先大学

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校数学科	カリフォルニア大学サンディエゴ校数学科	ラトローブ大学数学統計学科
国立シンガポール大学数学科	台湾師範大学数学科	ライデン大学数学研究所
ツェー・ベルリン研究所		

ヤングメンター

数学系・情報科学系・経済工学系のポスドク(学術研究員等)。数学共創モデリング・数学創発モデリングを中心にサポートするとともに、学生の学修や研究の進捗状況を把握します。

※ヤングメンターについては次ページ参照

実務メンター

民間企業や研究機関、あるいは自治体における研究者等。必要に応じて産学・異分野共創力強化インターンシップを通して、産業界等の現場の観点から学生を指導します。

■ 各メンター所属先(令和4年度現在)

統計数理研究所	マツダ株式会社	糸島市
理化学研究所	株式会社Beautiful Mind	日本電信電話株式会社
富士通株式会社富士通研究所	住友電気工業株式会社	国立研究開発法人産業技術総合研究所

Young Mentors ヤングメンター紹介



小野塚 友一

ONOZUKA Tomokazu

専門分野 ▶ 解析的整数論、リーマンゼータ関数、多重ゼータ関数

解析的整数論、特にリーマンゼータ関数や多重ゼータ関数の研究をしています。リーマンゼータ関数は素数分布とのつながりから、数論において特に重要な関数とされています。多重ゼータ関数はリーマンゼータ関数を多変数に拡張したもので、近年、盛んに研究されています。私はこれまで、多重ゼータ関数の解析的性質やリーマンゼータ関数と多重ゼータ関数の間の関係性に興味を惹かれ研究してきました。

得重 雄毅

TOKUSHIGE Yuki

専門分野 ▶ 確率論、ランダムウォーク、ランダムグラフ

私は確率論を専門にしています。最近「ランダム媒質中のランダムウォーク」と呼ばれる分野を研究しています。ランダムグラフの持つ幾何学的性質と、その上のランダムウォークの振る舞いの関係を理解することが重要なテーマとなります。これまでは長距離相互作用を持つパーコレーション模型や、生物の系統樹を表すゴルトン=ワトソンツリーのランダムウォークの研究してきました。



前原 悠究

MAEHARA Yuki

専門分野 ▶ 圏論、高次圏論

圏論とホモトピー論のハイブリッドの研究をしています。圏論は個々の対象自体よりも対象同士を結ぶ関係性のほうに着目して研究する分野で、ホモトピー論は「似ている」という関係を積み重ねて幾何的な情報を視る分野です。ホモトピー的構造を圏論的に捉えることによって「似ている」と「等しい」の類似性を厳密化したり、圏論的視点を入れ子にすることで関係を積み重ねてホモトピー的構造を見出したりしています。

吉澤 研介

YOSHIZAWA Kensuke

専門分野 ▶ 曲げエネルギー、変分問題

曲線の曲がり具合を測る量として曲げエネルギーと呼ばれる汎関数があり、曲げエネルギーの臨界点はビャン線などの弾性体の形状を数学的に記述するモデルとして知られています。近年は曲げエネルギーの臨界点に対し、凸性などの形状に関する定性解析に興味をもって研究しています。臨界点を特徴づけるオイラー・ラグランジェ方程式は四階の方程式で表され、基礎理論が十分に整備されていませんが、その分やり甲斐を感じています。



日高 建

HIDAKA Takeru

専門分野 ▶ 場の量子論、スペクトル解析、相互作用

粒子と量子場が相互作用する系のスペクトル解析を研究しています。ハミルトニアンのスペクトル、特に基底状態の存在・非存在を考えてきました。数学的には埋蔵固有値の摂動問題で離散固有値の摂動理論が使えません。最近はこの基礎的研究で得られた知見を応用したいと考え、量子コンピューターに関係する分野にも興味を抱いており、連係学府生と一緒にゼミに参加して学ぶことも多いです。

牙 曉瑞

YA Xiaorui

専門分野 ▶ 数値解析法、マルチスケール計算

磁石の持つ磁化は原子と電子の相互作用によって生じます。私は0や1を原子サイズの磁化向きに対応させて情報を記録するハードディスクの大容量化と、磁化の揺れが波の様に伝搬するスピン波と呼ばれる特性を利用した情報通信機器に関する研究を実験とシミュレーションの双方から推進しています。目で見ることができない磁化の動きを理論解析から得られた方程式を解いて画像化し、実験結果と比較しながら計算モデルを修正することで、より厳密な数学モデルを構築しています。



数理学府

マス・フォア・イノベーション連係学府 学長
辻井 正人
数理学府 教授
専門分野・力学系理論
・エルゴード理論

梶原 健司
マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野・離散微分幾何
・可積分系

原 隆
数理学府 教授
専門分野・数理物理学

NGUYEN Dinh Hoa
カーボンニュートラル・エネルギー
国際研究所 准教授
専門分野・Applied Math for Energy
・Control Theory

新居 俊作
数理学府 准教授
専門分野・力学系

廣瀬 雅代
マス・フォア・インダストリ研究所 助教
専門分野・統計科学

マス・フォア・イノベーション連係学府 副学長
佐伯 修
マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野・トポロジー
・データ可視化

神山 直之
マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野・離散最適化

廣島 文生
数理学府 教授
専門分野・場の量子論

齋藤 新悟
基幹教育院 准教授
専門分野・多重ゼータ値
・損害保険数理

廣瀬 慧
マス・フォア・インダストリ研究所 准教授
専門分野・統計科学

阿部 拓郎
マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野・超平面配置に関する数学
・代数的幾何学

河原 吉伸
マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野・機械学習

福本 康秀
マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野・流体力学
・電磁流体力学

櫻井 大督
情報基盤開発センター 准教授
専門分野・可視化

吉田 寛
数理学府 准教授
専門分野・理論生物学

他学府

寺本 振透
法学府 教授
専門分野・知的財産法

佐竹 暁子
理学府 教授
システム生命科学府 教授
専門分野・数理生物学

有村 秀孝
医学府 教授
医学系学府 教授
専門分野・医用画像情報学
・がんの数理モデリング

中島 直樹
九州大学病院 医学系学府 教授
専門分野・医療情報学
・糖尿病学
・内科学

成原 慧
法学府 准教授
専門分野・情報法

坂東 麻衣
工学府 准教授
工学府 准教授
専門分野・アストロダイナミクス
・制御工学

岡本 剛
基幹教育院 准教授
システム生命科学府 准教授
専門分野・脳科学
・システム神経科学
・生体医学

内田 誠一
システム情報科学府 教授
専門分野・画像解析
・パターン認識
・実データ解析

白谷 正治
システム情報科学府 教授
専門分野・プラズマ理工学

竹内 純一
システム情報科学府 教授
専門分野・機械学習
・情報理論

木村 慧
システム情報科学府 准教授
専門分野・数理最適化
・アルゴリズム

山本 薫
システム情報科学府 准教授
専門分野・制御工学

システム情報科学府

マス・フォア・イノベーション連係学府 副学長
村田 純一
システム情報科学府 教授
専門分野・システム工学
・制御工学

荒川 豊
システム情報科学府 教授
専門分野・ユビキタス
・コンピューティング

小野 謙二
情報基盤開発センター 教授
専門分野・数値流体力学
・高性能計算
・可視化

廣川 真男
システム情報科学府 教授
専門分野・数理物理学
・数理工学

石井 豊
数理学府 教授
専門分野・力学系理論

白井 朋之
マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野・確率論

増田 弘毅
数理学府 教授
専門分野・確率統計学

田上 大助
マス・フォア・インダストリ研究所 准教授
専門分野・数値解析

脇 隼人
マス・フォア・インダストリ研究所 准教授
専門分野・最適化理論

落合 啓之
マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野・代数学

富安 亮子
マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野・応用代数

溝口 佳寛
マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野・計算理論

CESANA Pierluigi
マス・フォア・インダストリ研究所 准教授
専門分野・PDE
・Calculus of Variations
・Materials Science

石塚 裕大
マス・フォア・インダストリ研究所 助教
専門分野・数論的不変式論

鍛冶 静雄
マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野・代数的幾何学

縫田 光司
マス・フォア・インダストリ研究所 教授
専門分野・組合せ論
・組合せ論の群論

GAINA Daniel Mircea
マス・フォア・インダストリ研究所 准教授
専門分野・数理論理学
・圏論
・形式手法

手老 篤史
マス・フォア・インダストリ研究所 准教授
専門分野・数理モデリング

浦本 武雄
マス・フォア・インダストリ研究所 助教
専門分野・代数学
・理論計算機科学

森山 哲裕
マス・フォア・インダストリ研究所 助教
専門分野・トポロジー

数理学府

岡安 崇史
農学府 教授
生物資源環境科学府 教授
専門分野・農業情報学
・農業機械学
・計算力学

久保田 浩行
生体防衛医学研究所 教授
システム生命科学府 教授
専門分野・システム生物学

竹村 俊彦
応用力学研究所 教授
総合理工学府 教授
専門分野・気象学
・大気環境学

伊藤 浩史
芸術工学府 教授
芸術工学府 准教授
専門分野・時間生物学

丸山 修
芸術工学府 准教授
芸術工学府 准教授
専門分野・生物情報学

TA Viet Ton
農学府 准教授
生物資源環境科学府 准教授
専門分野・確率微分・偏微分方程式
・数理生物学

宇田 新介
生体防衛医学研究所 准教授
システム生命科学府 准教授
専門分野・システム生物学
・情報科学
・機械学習

野下 浩司
理学府 准教授
システム生命科学府 助教
専門分野・形態測定学
・数理生物学
・進化生物学

池田 達紀
工学府 助教
工学府 助教
専門分野・物理探査学

他学府

マス・フォア・イノベーション連係学府 副学長
浦川 邦夫
経済学府 教授
専門分野・応用経済学
・福祉政策

大西 俊郎
経済学府 教授
専門分野・統計科学

瀧本 太郎
経済学府 教授
専門分野・時系列分析
・計量経済学

北原 知就
経済学府 准教授
専門分野・数理計画法
・オペレーションズ・リサーチ

小室 理恵
経済学府 准教授
専門分野・応用数学

伊豆永洋一
経済学府 講師
専門分野・数理最適化

経済学府

Admission Information for Master's Degree

入試情報(博士前期課程)

求める学生像

博士前期課程では、数学、情報科学、経済学などに学問的基盤を持つ学生で、学士課程レベルでの数学の基礎学力*1が備わり、さらに高度で広範な数学の知識獲得や数学を用いた自らの研究の推進に意欲をもつ学生を求めます。特に、高度に発達した数学理論の探究や数学モデリングを用いた応用研究に興味をいだくとともに、異分野や社会における課題にも挑戦し、新たな知見を獲得しようとする意欲のある学生を歓迎します。

*1 理系の学生を対象として教育が行われる「微積分学」、「線形代数学」を初めとする、諸科学分野を学習する上で必須となる事項に関する基礎的な学術基盤や学力を指します。基本的には、理学部数学科等で身に付ける。現代数学の概念の理解を含む「数学力」「統計力」の習得を入学の要件としますが、習得されていない場合は、入学後にトランジション科目を受講できます。

出願資格

令和5年4月期入学の下表「連係協力学府」のいずれかの博士前期課程入学者選抜に合格した者。よって、本連係協力学府に出願する前に、下表の学府・専攻を受験する必要があります。

連係協力学府	数理学府	数理学専攻
	システム情報科学府	情報理工学専攻 電気電子工学専攻
	経済学府	経済工学専攻



マス・フォア・イノベーション連係学府オリエンテーションの様子

選抜方法等

上表の学府・専攻における入学者選抜を受験の上、合格した志望者を対象に、出願理由書、推薦書等による書類審査及び口頭試問による選抜を行います。詳細については、本連係学府募集要項(11月頃公表)をご確認ください。

選抜の流れ(予定)



募集人員

12名

Admission Information for Doctoral Degree

入試情報(博士後期課程)

求める学生像

博士後期課程では、数学、情報科学、経済学などに学問的基盤を持つ学生で、大学院レベルでの数学の学力および実践的応用力が備わり、さらに高度で広範な数学の知識獲得や数学を用いた自らの研究の推進に意欲をもつ学生を求めます。特に、高度に発達した数学理論の探究・構築や数学モデリングを用いた実践的応用の経験を持つとともに、異分野や社会における高度な課題にも挑戦し、新たな知見を獲得しようとする意欲のある学生を歓迎します。

出願資格

令和5年4月期入学の下表「連係協力学府」のいずれかの博士後期課程を受験予定の者。よって、本連係学府に出願する前に、下表の学府・専攻に出願する必要があります。

連係協力学府	数理学府	数理学専攻
	システム情報科学府	情報理工学専攻 電気電子工学専攻



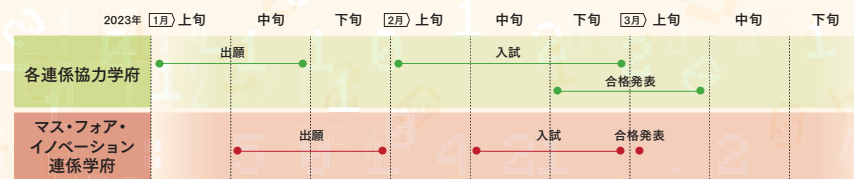
マス・フォア・イノベーション・カフェの風景

※本連係学府に選抜されるためには、上表の連係協力学府の入学者選抜に合格していることが必須となります。なお、本連係学府入学者選抜に不合格の場合でも、上表の連係協力学府の合格が取り消されることはありません。

選抜方法等

上表の学府・専攻における入学者選抜を受験した志望者を対象に、出願理由書、推薦書等による書類審査及び口頭試問による選抜を行います。詳細については、本連係学府募集要項(11月頃公表)をご確認ください。なお、本連係学府の博士前期課程からの進学者については、本選抜とは別の進学試験を受験する必要があります。

選抜の流れ(予定)



募集人員

14名(博士前期課程からの進学者を含む。)

Students' Voice

学生の声



数理学系
博士後期課程1年

吉田 航

YOSHIDA Wataru

私の専攻する統計学では教科書や論文のみならず、実データ解析から学ぶことは非常に多いと感じます。実際に、実データを用いた実験がきっかけで、私の修士論文の研究内容が決まりました。本学府の魅力として感じるのは、普段体験できないようなデータの解析に挑戦できることです。例えば私は、地質学の先生のもとで地震波速度データの解析を行ない、実践を通して様々なモデルの知識を身につける事ができました。他分野の専門家の生の声を聞く機会は大変貴重であると思います。データ解析に興味がある方は是非本学府に志願してみても如何でしょうか。必ず研究の幅が広がると思います。

システム情報科学系
博士後期課程1年

藤井 彬人

FUJII Akito

私は、データの等値集合が形成する幾何構造のトポロジー変化を解析する研究を行っています。連係学府では、数学専門の共創メンターの教員から、研究の役に立つ数学の知識を学ぶことができ、自身の研究をより良いものに上げることができたと感じています。また、他の学府と違い、経済、数理の学生と一緒に、講義やイベントに参加することができ、自分の視野を広げることができます。これから皆さんが行う社会貢献に向け、有益なプロジェクトが盛りだくさんの連係学府に、興味がある方はぜひ挑戦してみてください。お待ちしております。



経済学系
博士前期課程1年

平田 伸哉

HIRATA Shinya

私の専門は時系列分析で、データの分析手法について学んでいます。将来はデータサイエンティストを目指しています。データサイエンティストのキャリアとしてPhDを取ることや数学を武器にできることは面白そうであり、数理学府やシステム情報科学府の科目も専門的に学べるという理由から連係学府に入りました。「共創力強化インターンシップ」では国際というコースがあり、留学もしてみたいと考えています。学部時代はほとんど数学をやっていなかったので数学の授業についていくのは大変ですが、難しい領域に挑戦できてわくわくしています。



Contact

お問い合わせ

九州大学理学部等事務部 マス・フォア・イノベーション卓越大学院事務支援室
〒819-0395 福岡市西区元岡744番地 ウェスト1号館4階A413号室
電話番号 ▶ 092-802-4355 メールアドレス ▶ gpmioffice@jimu.kyushu-u.ac.jp

Access

アクセス



- 博多駅からの案内 所要時間 約45分～60分
地下鉄で行く(博多 → 九大学研都市 → 九大理学部前) 西鉄バスで行く(博多駅前A → 九大理学部前)
- 福岡空港からの案内 所要時間 約50分
地下鉄で行く(福岡空港 → 九大学研都市 → 九大理学部前)
- 天神からの案内 所要時間 約40分～45分
地下鉄で行く(天神 → 九大学研都市 → 九大理学部前) 西鉄バスで行く(天神ソリアステージ前 → 九大理学部前)



JGMI
Joint Graduate School of
Mathematics for Innovation

詳しい情報は、
下記ホームページをご覧ください。

<https://www.gpmi.kyushu-u.ac.jp/>



